



2021年5月7日

各位

会社名 株式会社 東京通信
 代表者名 代表取締役社長CEO 古屋 佑樹
 (コード番号: 7359 東証マザーズ)
 問合せ先 取締役 CFO 村野 慎之介
 (TEL. 03-6452-4523)

業績予想の修正及び報告セグメントの変更に関するお知らせ

2021年2月12日に公表した業績予想を修正いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2021年12月期通期連結業績予想数値の修正(2021年1月1日~2021年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	2,763	352	353	227	46.02
今回修正予想(B)	4,350	420	380	180	36.45
増減額(B-A)	1,586	67	26	△47	
増減率(%)	57.4	19.1	7.4	△20.8	
(ご参考)前期実績 (2020年12月期)	2,449	383	369	193	44.61

(注). 当社は2020年8月29日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益を算定しております。

(修正の理由)

当社グループは、ITマーケティング企業として、スマートフォンアプリ及びインターネット広告を活用した事業を展開し、アプリ事業及び広告代理事業を主な事業として取り組んでおります。

アプリ事業につきましては、2020年11月に本格的に運用を開始したハイパーカジュアルゲームアプリ「Save them all」が当第1四半期も引き続き好調に推移しており、売上高が当初の見通しを上回る水準で推移しております。営業利益につきましても、売上高が増加したことで当初の見通しを上回りました。

以上の結果、アプリ事業の売上高は27億60百万円(対前回予想17.9%増)、セグメント利益は6億10百万円(対前回予想19.3%増)を見込んでおります。

一方、広告代理事業につきましては、主要クライアントの予算縮小の影響を受けたことに加え、新規案件の獲得が当初想定した計画よりも遅れていることから、売上高、営業利益が前回予想数値を下回る見通しとなりました。

以上の結果、広告代理事業の売上高は2億60百万円（対前回予想32.1%減）、セグメント利益は1億60百万円（対前回予想39.0%減）を見込んでおります。

また、2021年3月31日付で開示いたしました「株式会社ティファレトの株式取得（完全子会社化）にともなう新たな事業の開始及び資金の借入に関するお知らせ」のとおり、株式会社ティファレト（以下、ティファレト）の株式を取得し、連結子会社化したことにともない、新たな報告セグメントとして「プラットフォーム事業」を追加いたします。売上高は12億70百万円、セグメント利益は70百万円を見込んでおります。上記のセグメント利益には、ティファレトの連結子会社化により発生するのれんおよび無形資産の償却費を2億22百万円見込んでおります。

なお、のれん償却費は、会計上の費用であり損金に含められず、税金等調整前当期純利益に対する法人税等の負担率が増加いたします。また、資金の借入にともなう借入手数料60百万円が営業外費用として発生したため、親会社株主に帰属する当期純利益は前回予想数値を下回る見通しです。

以上の結果、通期業績予想につきましては、売上高43億50百万円（対前回予想57.4%増）、営業利益4億20百万円（対前回予想19.1%増）、経常利益3億80百万円（対前回予想7.4%増）、親会社株主に帰属する当期純利益1億80百万円（対前回予想20.8%減）へと修正を行いました。

なお、今回の業績予想の修正にあたり、新型コロナウイルス感染拡大の影響は2021年12月期末まで継続するものの、業績に与える影響は軽微であると判断しております。

※通期業績予想につきましては、ティファレトの連結子会社化により発生するのれんおよび無形資産の償却期間、償却費の試算額について監査法人と協議中であり確定しておらず、変動する可能性がございます。今後、業績予想の修正が必要と判断される状況となった場合には、速やかに開示いたします。

2. 報告セグメントの変更

ティファレトの連結子会社化にともない、報告セグメントを以下のとおりに変更いたします。当社グループの従来までの報告セグメントである、「アプリ事業」「広告代理事業」に加え、「プラットフォーム事業」を新たに報告セグメントに追加いたします。なお、2021年3月31日付で開示いたしました「株式会社ティファレトの株式取得（完全子会社化）にともなう新たな事業の開始及び資金の借入に関するお知らせ」では当該事業の名称を「コミュニケーションプラットフォーム事業」としておりましたが、より広い範囲での事業展開を見据えてセグメント名を「プラットフォーム事業」に変更いたしました。

新セグメントによる報告は、2021年12月期第2四半期より開始いたします。

【旧セグメント】

アプリ事業
広告代理事業



【新セグメント】

アプリ事業
広告代理事業
プラットフォーム事業

アプリ事業	国内及び海外向けカジュアルゲームアプリ、ハイパーカジュアルゲームアプリの運用、管理
広告代理事業	広告主と媒体のリレーション業務、アフィリエイトサービスプロバイダの開発、運用
プラットフォーム事業	電話相談サービス「カリス」の企画、運営

以上